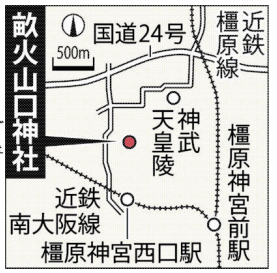
畝傍山の懐に抱かれた畝火山口神社の拝殿＝橿原市大谷町で

やまとの神さま

山頂に移転し、また下り

畝火山口神社（橿原市）

（住所）橿原市大谷町157の1
（祭神）気長足姫命、豊受比売命、表筒男命
（交通）近鉄橿原神宮西口駅から徒歩約15分
（拝観）境内自由
（駐車場）有（17台）
（電話）0744・22・4960



「お峯山」とも呼ばれている神社の創始は明らかではありませんが、806（大同元）年の「新抄格勅符抄」に名が初めて登場し、これ以前の創建とされます。平安時代の「延喜式神名帳」では式内大社に登載されました。

江戸時代に刊行された「大和名所図会」には「昔山麓にあり、今山頂に移す」とあって、室町時代後期に畝傍山西側山麓から山頂に移されました。

約400年たった1940（昭和15）年の皇紀2600年祭で、東麓の神武天皇陵を見下ろす場所は好ましくないと、再度、西麓に移されました。

毎年7月28日の夏季大祭はデンデンデンソと打つ太鼓の音から「でんそそ祭り」と呼ばれ、大淀町の吉野川から汲んできたご神水が神前に供えられ、境内は浴衣姿の参詣者らで賑わいます。「夏痩せする子には綿入れの着物を着せてお参りしたらご利益がある」などの言い伝えもあります。

「日本書紀」によると、祭神の気長足姫命（神功皇后）は、古代の朝鮮出兵の際、応神天皇を出産。このため「安産の守り神」とされ、戌の日に腹帯を求める人たちが訪れます。

大阪の住吉大社から神官が2月と11月の年2回、神社を訪れ、畝傍山山頂で埴土を採取する「埴取り」神事も有名です。（奈良まほろばソムリエの会会員　若林稔）